

ひびわれの調査・診断

- 1 目視調査
ひびわれの有無、状況、位置等を目視、双眼鏡等により確認
ひびわれ分布状態も同時調査する
暗い所や表面塗膜がある場合
見落としやすいので注意する
- 2 ひびわれ幅の調査
ひびわれ幅を拡大率7倍の
照明付クラックルーペにて正確に
測定する
1本のひびわれに対し数箇所測定し
その平均値をもってひびわれ幅とする
- 3 ひびわれ長さの調査
メジャーにより
ひびわれ延長を測る
- 4 コンクリート厚み調査
設計図書参照または現地測定
- 5 調査表作成
ひびわれ分布図など
- 6 診断・協議
- 7 ミクロカプセル工法決定

<調査・診断上の留意点>

- 表面に塗膜等がある場合
表面のひびわれ幅(見掛け幅)と
躯体のひびわれ幅(真のひびわれ幅)とが
異なる場合があるので必ず表面塗膜を
除去して測定する

標準工法 ひびわれ注入施工手順

- 1 下地処理
ひびわれの上に注入器具を取り付ける際、
その接着をよくするために、ワイヤーブラシ及び
サンダーなどを用いて、ひびわれに沿って
幅50mm程度ケレンする。
既存仕上げ材がある場合は除去することが
原則であるが、既存仕上げ材が健全であれば、
仕上げ材を除去せずに下地処理を行い
注入器具の取り付けを行ってよい。
- 2 注入孔位置の決定
できるだけ等間隔で
注入しやすい箇所を選ぶ
注入ピッチは、ひびわれ巾1.0mm
コンクリート厚150mmの条件の時、
1mあたり約4~5本(約200~250mm)
の取付けを標準とするが
注入ピッチは、ひびわれ巾や
コンクリート厚により異なるので
設計者や施工者の判断によるものとする
- 3 台座取付け
台座用接着剤の配合比と可使用時間に注意し
全体を均一に混ぜる
1回の計量は可使用時間内に使い切る量とする

接着剤は台座の中心穴を
ふさがないようにドーナツ状に塗布する
台座の中心とひびわれを合わせ
接着剤が注入孔をふさがないように
取付け固定する
- 4 ひびわれシール工
液漏れしないように確実にシールする
特に台座周りや枝分かれしているひびわれの
末端・細部にも入念に塗布する
貫通しているひびわれには裏面もシールする
ピンホール(泡)がある場合は上から再塗布する
シール材の硬化時間を確認する
硬化を確認後注入を開始する
- 5 注入剤準備
注入剤は必ず現場の気温に適したものを使用する
硬化不良を避けるため配合比を守り
必ず1分以上全体を均一に攪拌する
容器の底の隅は混合しにくいので特に気を付ける
注入剤の可使用時間に注意し
1回の計量は可使用時間内に使い切る量とする

キャブコンに注入剤を満杯に入れ
キャップをしっかり閉めた後、本体に取付ける
- 6 注入開始
5の本体を台座に取付け、バネをゆるやかに
解除する
- 7 注入状況の確認
シール等から液漏れが無い事を確認
注入が完了するまで、キャブコンの中の注入剤が
空にならないように補充を繰り返す
- 8 注入完了
バネが動かなくなると注入は完了
- 9 養生
キャブコンに注入剤が十分残っている状態で
バネの圧力をかけたまま
衝撃や振動を与えないように養生する
養生時間は注入剤の硬化時間を確認する
- 10 撤去
注入剤が完全に硬化したことを確認してから
撤去する
台座用接着剤は熱風機で温めると軟化し
取り除きやすくなる
- 11 仕上げ・清掃
- 12 完了

<施工上の留意点>

- 注入剤の適用温度を確認する
- 下地が乾燥していることを確認する
特に降雨雪後の数日間は注意する
- 材料は直射日光を避け、乾燥した場所に保管する
- 夏季は特に施工環境温度に注意する
- タイル面やスラブ等への注入は熟練を要する
- 安全リングにロープを通すと落下を防ぎ、高所の
施工でも安心
- 施工前に施工要領書・梱包箱側面の取扱説明書
を熟読する



背面シールが不可能な場合

